

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策2 市町村との更なる連携による行政の推進
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	市町村課長 伊藤 直文	電話番号	0852-22-5061
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	市町村財政運営支援事業		
目的	(1) 対象	市町村	
	(2) 意図	地方税、地方交付税、地方債等の財源の確保及び財政の健全性の確保	
事業概要	市町村の財源確保を行うため、地方交付税の算定、地方債等の同意等事務にかかる調査・検収・ヒアリング等を行う。地方交付税の算定が実態に即した適正なものとなるよう、国に対し、制度改正等を要望する。市町村の財政運営の健全化に向けた支援・助成を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	実質公債費比率の引き下げ	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	地方債届出制度の基準となる16%未満市町村数	目標値		5.00	7.00	
			実績値	3.00	7.00	8.00	14.00		
			達成率		140.00	114.30	155.60		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
									目標値
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	289,028	313,030
うち一般財源(千円)	287,645	311,647

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 近年の地方債の繰上償還、新規地方債の発行抑制により、実質公債費比率等の「財政健全化の指標」は徐々に改善してきている。
 <県内市町村平均> 実質公債費比率：16.5%（対前年度比△0.9P）、将来負担比率：140.2%（対前年度比△12.0P）
- 政府の「骨太の方針2015」において、2020年度の国と地方のプライマリーバランス黒字化を目標とし、2016～18年度の3年間で「集中改革期間」と位置づけ、国・地方の歳出全般にわたり徹底した見直しを行う方針が示された。
- 合併市町村においては、H27年度から普通交付税の合併算定替の終了による縮減が始まる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 地方債の発行に許可が必要となる実質公債費比率が18%を超える団体数がH25年度：4団体→H26年度：1団体へ減少し、改善が図られた。
- 合併算定替終了による影響を緩和するため、地方交付税の制度改正要望を行った結果、
 H26地財：支所経費の新設
 H27地財：消防、清掃経費等の見直し等の充実が図られた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 県内市町村の財政指標の平均は、全国市町村平均に比べて極めて高い状況が続いている。
 <県内市町村平均> 実質公債費比率16.5% 将来負担比率140.2%
 <全国市町村平均> // 8.6% // 51.0%
- 依然として実質公債費比率が16%を超えている団体がある。
- 合併算定替関連の制度改正要望については、H28年度見直し分の積み残しがある。

②困っている状況が発生している「原因」

- 県内市町村は自主財源に乏しく、歳入のうち約7割を地方交付税・国庫支出金・地方債などの依存財源に頼っているが、「骨太の方針2015」により、地方財政を取り巻く環境も厳しくなっている。

③原因を解消するための「課題」

- 財源確保に向けた取組みの強化、及び財政のマネジメント強化（公共施設等総合管理計画の策定、新地方公会計の推進など）による更なる財政健全化に取組む必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 地方交付税の総額確保と併せて、合併算定替期間（10年）終了後の新たな需要額算定に向けた取組みを行う。
- 市町村の財政健全化に向けた取組みを引き続き支援する（公共施設等総合管理計画の策定、新地方公会計の推進など）。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）